松本市文化財調査報告No.67

松本市横田・岡田遺跡

——送電線増強工事に関わる緊急発掘調査報告書——

1981・3

中部電力株式会社長野支店

松本市教育委員会

例　　言

1．本書は昭和55年９月23日より56年１月26日にわたって行われた、松本市横田・岡田間の５地点の緊急発掘調査報告書である。

2．本調査は松本市教育委員会が中部電力株式会社長野支店より委託を受けたが、都合により中島豊晴を団長とする調査団が再委託を受けて、調査したものである。

3．本書の執筆はⅣを倉科明正が、他は神沢昌二郎が担当し、神沢が編集した。

4．本書の作成にあたっては平林　彰、直井雅尚ほかの助力をえた。

5．資料報告に当たっては角田文夫氏の協力をえた。

6．出土遺物・図書類は松本市教育委員会が保管している。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
Ⅱ．調査団及び協力者 …… 1
Ⅲ．調査日誌 …… 1
Ⅳ．遺跡周辺の歴史的環境 …… 3
Ⅴ．遺構と遺物 …… 6
図・表・写真

I　調査に至る経過

中部電力長野支店大久保芳郎氏より昭和54年4月20日に横田以北の、送電線鉄塔立替個所の埋蔵文化財の保護について相談をうけ、現地調査の結果3ケ所について確認調査を行うこととした。市教委では他に発掘調査を抱えており、調査ができないため日本考古学協会員の中島豊晴氏に調査会の結成を依頼し、再委託をして10月7日に委託契約を結んだ。

II　調査団及び協力者

団　長　中島豊晴

調査員　西沢寿晃　三村　肇　横田作重
倉科明正　浅輪俊行　山越正義
神沢昌二郎
県ケ丘高校風土研究会
岡田公民館

III　調査日誌

54．9．23（日）曇　三村、西沢、横田、神沢らにより横田東裏260番地のブドー畑内の鉄塔建設予定地に2×2mのグリットを2ケあける。午後は横田5丁目266番地の鉄塔ではすぐ南の地点の発掘にかかったが、この地はゴミ捨て場になっており、1グリットをあけたが何ら遺物はなかった。

9．24（月）晴　中島、西沢、三村、横田、神沢らにより、岡田町字一ツ家507－1番地の岡田西裏遺跡の調査にかかる。鉄塔建設予定地は桑畑であり、まず桑の抜根よりはじめる。作業は人手がないため調査員が行い、重労働に全身汗まみれとなる。

9．29（土）晴　桑抜根作業継続。僅かではあるが土師器・須恵器が検出される。

10．6（土）曇　夕方近く小雨。鉄塔建設地に8×8m内に2×2mのグリット16個所を設けて掘る。県ケ丘高校風土研究会会員の応援を得る。東北隅に落ち込みあり。住居址かと思われる。

10．8（月）曇　中島らにより住居址掘り込み。

10．10（水）晴　住居址平板測量。高校生らの手助けをうけ、一部掘り不足部分も掘る。

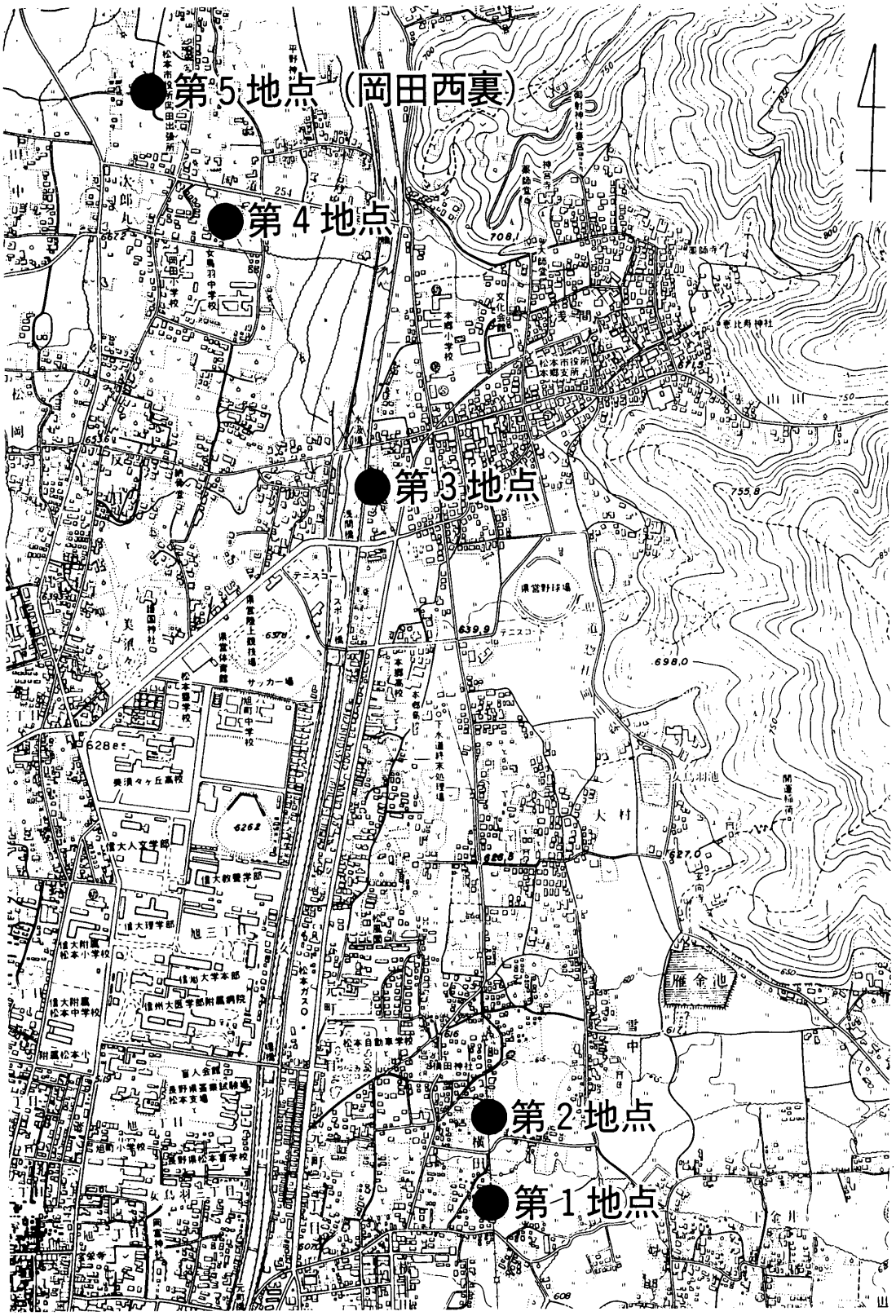
10．11（木）晴　住居址測量。周辺遺跡を調査。本遺跡の北側畑にも土師器・須恵器片が表面採集される。

10．12（金）晴　周辺遺跡調査。松岡下り角田文夫氏裏畑より土師器が多量に出土している。

11．18（土）曇　横田東裏埋めもどし。

55．1．18（金）曇　水汲橋東、女鳥羽川左岸仮鉄塔下調査。女鳥羽川の砂礫層で遺物包含層はない。

1．26（土）晴　岡田地区仮鉄塔、農協南東および発掘地点北の仮鉄塔をみる。前者には遺物はなく、後者には須恵器片を検出する。



第１図　発掘位置図　（１：15,000）

Ⅳ　遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡のある松本市岡田地区は松本市の北部に位置し、平坦部はその東に相接する本郷地区と共に女鳥羽川の扇状地帯を形成している。また西部一帯は城山丘陵続きの低い山陵地帯である。

岡田地区最古の歴史はこの丘陵地帯から始まっている。岡田地区の西北部に続く島内地区下平瀬山田の稲干場から後期旧石器時代に属するポイント（石槍）が発見されている。岡田地区においては、岡田神社の北に続く段丘上から有舌ポイント（投槍の先）が出土し、これとほぼ同時代のものが下岡田塩倉池付近から採集されている。

この丘陵続きの蟻ケ崎放光寺南方の畑地及峯の平、城山腰、白金などからの発見がある。将来この城山丘陵からこの外の発見の可能性が強い。

この時代に続く縄文早期の遺物としては、松岡に接する白金地籍から、撚糸文土器が発見されているほか確認はなく、これに続く前期の繊維土器・下島式・下島直後形式の土器やこれに伴うものと見られる石鏃・打製石斧・石皿・凹石などが同所から発見されているほか岡田地籍内での発見は今のところはないのである。

中期になると塩倉の貯水池西側（西塩倉）からは、この期の初頭形式土器が出土し、中葉の勝坂式の土器は田溝池南の中窪からと、塩倉の貯水池南側、神沢峰の平などから発見されている。これに続く加曽利Ｅ式土器は田溝池南から土偶胴部・土偶・磨製石斧・打製石斧・打製石包丁・石皿・凹石・石鏃・石匙などと共に多量に発見されている。また塩倉貯水池西側からと東側とからも発見を見る。また神沢峰の平から、石鏃・打製石斧・半磨製石斧・凹石などが出土している。

平地では松岡のさがり西側で加曽利Ｅ式土器・打製石斧・凹石が出土しているほか、中期土器に伴出する打製石斧が上の段から出土し、塩倉銭塚から石鏃・打製石斧・磨製石斧が、また塩倉峰から円形四孔土盤・滑車製石環が出土しているほか、岡田町向山地籍から打製石斧、石鏃の発見があり、伊深矢作からは磨製石斧、同西小路から打製石斧・石鏃の出土を伝えているが伴出土器の見つからないところから年代の決定は出来得ない。

後期になると遺跡・遺物の発見は急に減少を見せ、わずかに塩倉貯水池西側から堀之内式土器が発見されているのに過ぎないのである。

晩期の発見遺跡・遺物は今のところなく、弥生式時代に入っても遺物の発見例は極めて少なく、わずかに岡田町向山の段丘上西光寺畑（旧称西光寺江戸時代の大願寺の旧跡）より磨製石鏃が発見されているのに過ぎないのである。

古墳時代に入ると和泉式の土師器を出す松岡山伏塚、さがりの遺跡があり、また古式古墳に伴って発見される柳葉形の銅鏃が田溝池南からガラス玉一個を伴って発見されているが、この柳葉形の銅鏃１点が、同形の鉄鏃を伴って発見された弘法山古墳などから、これよりあまり時代の下らない五世紀初頭のものと推定される（同形式ではあるが錫の含有量が多いところから時代が若干下る）。これは本郷地区浅間温泉雨堤東の山麓から発見されている形式不明の銅鏃と共に大に研究されるべき青銅製の遺物である。

土師器・須恵器も後期になると急にその遺跡や遺物の数を増している。

松岡のどうこん原・土田・さがり、下岡田の次郎丸・中田・堀之内・塩倉・猫塚など、岡田町の西裏では岡田神社参道より北100m付近より南北約300mに亘って濃淡はあるが発見されている（地下25cm～35cmに包含層がある）。

岡田町の北部では中島・蓮台・道間地籍に亘って遺物の散布がある。これに伴って地続きの伊深の一里塚の一部にも分布が広がっている。

伊深の矢作及び慶弘寺址などから若干の出土がある。

この須恵器を焼いた窯址は、田溝の一丈ケ峰下・中ノ沢などに20数基が一部発掘調査と確認調査によって知られている。これは岡田田溝池古窯址群と称すべきもので、ここで焼かれた須恵器は広く松本地方に分布されたものと推定される。

古墳は今のところ伊深には1基の確認もなく、岡田町の中島古墳（直径約20m）・高根塚古墳（大正15年発掘）、その外未確認ながら一基、下岡田の猫塚古墳、矢崎の古墳群（6基）・塚倉の塚山に古墳群（3基）、松岡の反目地籍には既掘未掘合わせて6基の古墳（松岡古墳群）がある。以上合わせて19基が確認され、この外塚田などかつて古墳があったことを示す地名まで加えると少なくとも20基以上古墳があったものと考えられる。

この外浅間山（俗称芥子坊主）の土塚は古墳である可能性が強い。特に東麓の田溝池南岸より古式柳葉形の青銅鏃の発見があるところからと松本市を一望のもとにおさめることの出来る位置にあって古式古墳ではないかとも考えられる。

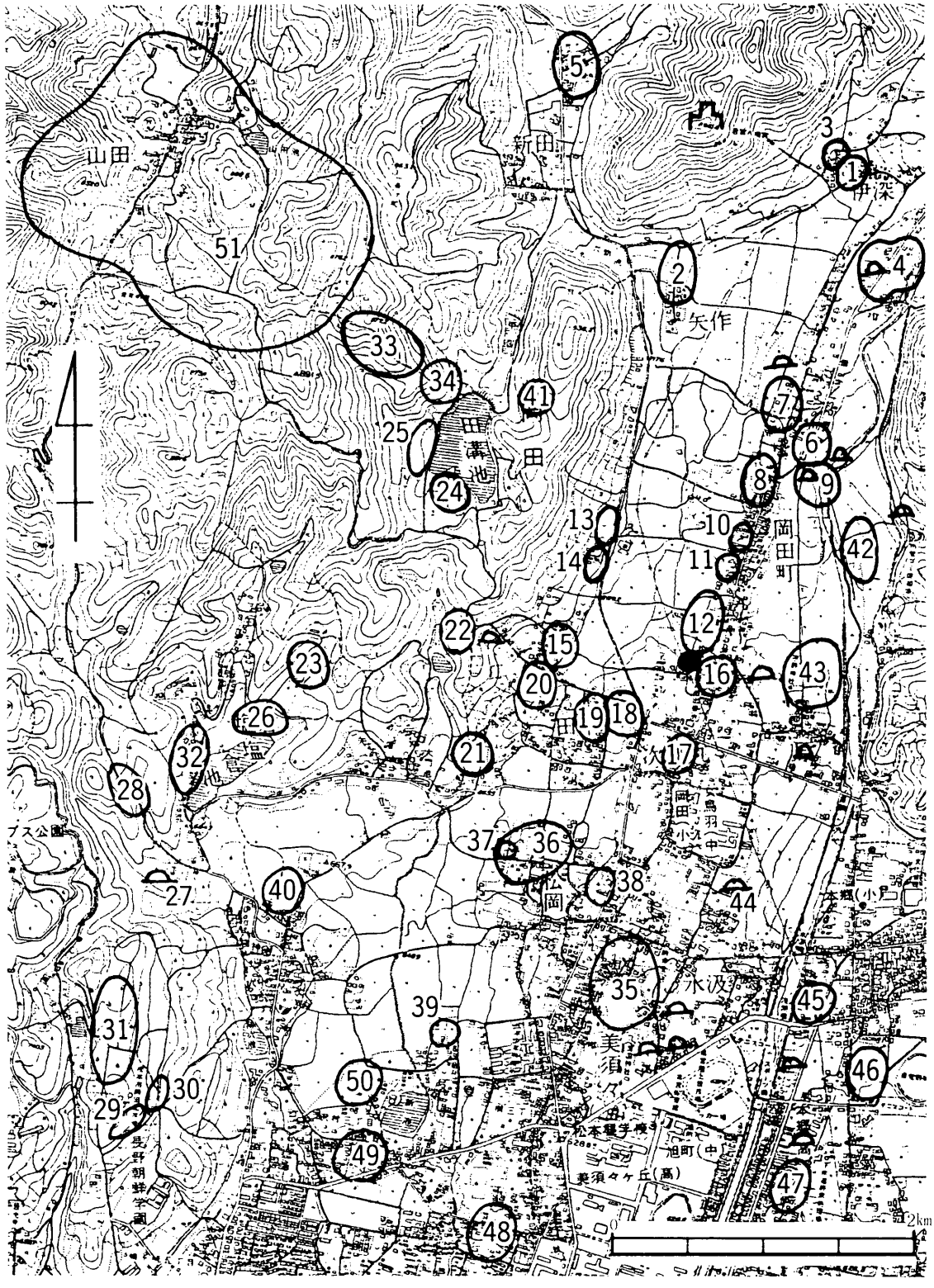
灰釉の陶器は、伊深の慶弘寺址・矢作、岡田町の道間・中島・西裏、下岡田の中田・堀の内、松岡のさがり・どうこん原などからである。この外どうこん原からは緑釉も出土しているのである。

以上が岡田地区内における遺跡と遺物の概要である。

註　岡田地区は現在大字岡田伊深・岡田町・岡田下岡田・岡田松岡の4つに分かれており、本遺跡は岡田町地籍内に属している。

周辺遺跡名（第2図）

1　西小路	18　中田	35　反目
2　矢作	19　堀之内	36　さがり
3　慶弘寺址	20　宮ノ後	37　山伏塚
4　一里塚	21　矢崎	38　上ノ段
5　安土	22　清水入	39　どうこん原
6　道間	23　御宝殿	40　土田
7　中島	24　田溝南	41　田溝窯
8　蓮台	25　田溝西	42　洞
9　高根	26　塩倉池	43　宮之上
10　大願寺址	27　塚山	44　水汲古墳群
11　阿弥陀堂	28　塩倉峯	45　柴田
12　西裏	29　貯水池南	46　柳田
13　向山	30　貯水池東	47　大輔原
14　西光寺畑	31　峰の平	48　元原
15　宮北	32　西塩倉	49　白金町
16　下出口	33　田溝中ノ沢	50　キツネ塚
17　猫塚	34　田溝入	51　山田古窯址群



●第5地点

第2図　周辺遺跡

参考文献

1．『信濃浅間古墳』－昭和41年－本郷村刊

2．「浅間付近における弥生・土師・須恵器遺跡とその遺物」－昭和41年－本郷村刊

3．『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌』第二巻上－東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会刊

4．『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌』別編地名－昭和51年－東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会刊

5．第二次『信濃』昭和十七年七月号「田溝池出土の銅鏃」－信濃史学会刊

V　遺構と遺物

(1)　遺構

調査地点は５ヶ所あり、南より①～⑤であるが、そのうち実際に発掘調査した地点は①横田５丁目、②横田東裏、③岡田町一ツ家（岡田西裏）の３ヶ所であるが、遺構の検出されたのは⑤の岡田西裏のみであった。

①第１地点　横田５丁目

鉄塔下部のレベルは水田より40cmあまり高く、埋土やゴミ捨て跡で、遺構・遺物等はなかった。

②第２地点　横田東裏

葡萄園内で1.1×1.2mの試掘坑を２ヶ所あけた。地層は耕作土10cm、褐色土20cm、径20cm内外の礫を含む黒褐色土30cm、砂質の増す土層が20cmと続き、更に小礫の混じる砂質の茶褐色の層が続く。遺物は表面採集の須恵器片があり、－40cmで縄文中期土器片が３点あったのみで遺構はない。

③第３地点　水汲橋東南

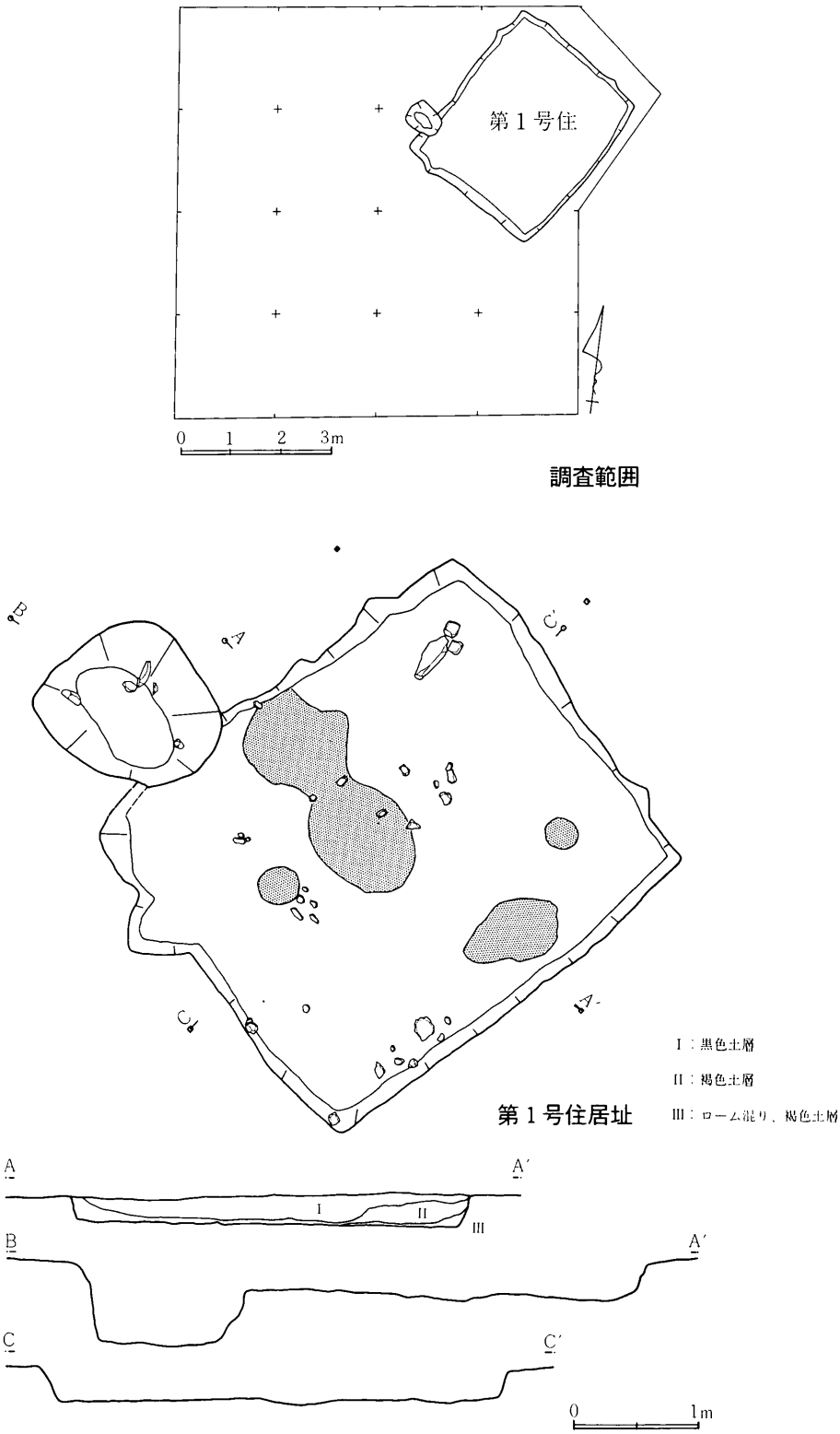
工事掘削時の所見では耕作土が80cmと深く、その下に中位の礫を含む黒褐色土が20cm、砂質の褐色土が30cmの層をなし、以下大礫を僅かに含む砂質性の強い黄褐色土が続く。遺構・遺物はない。

④第４地点　杵坂

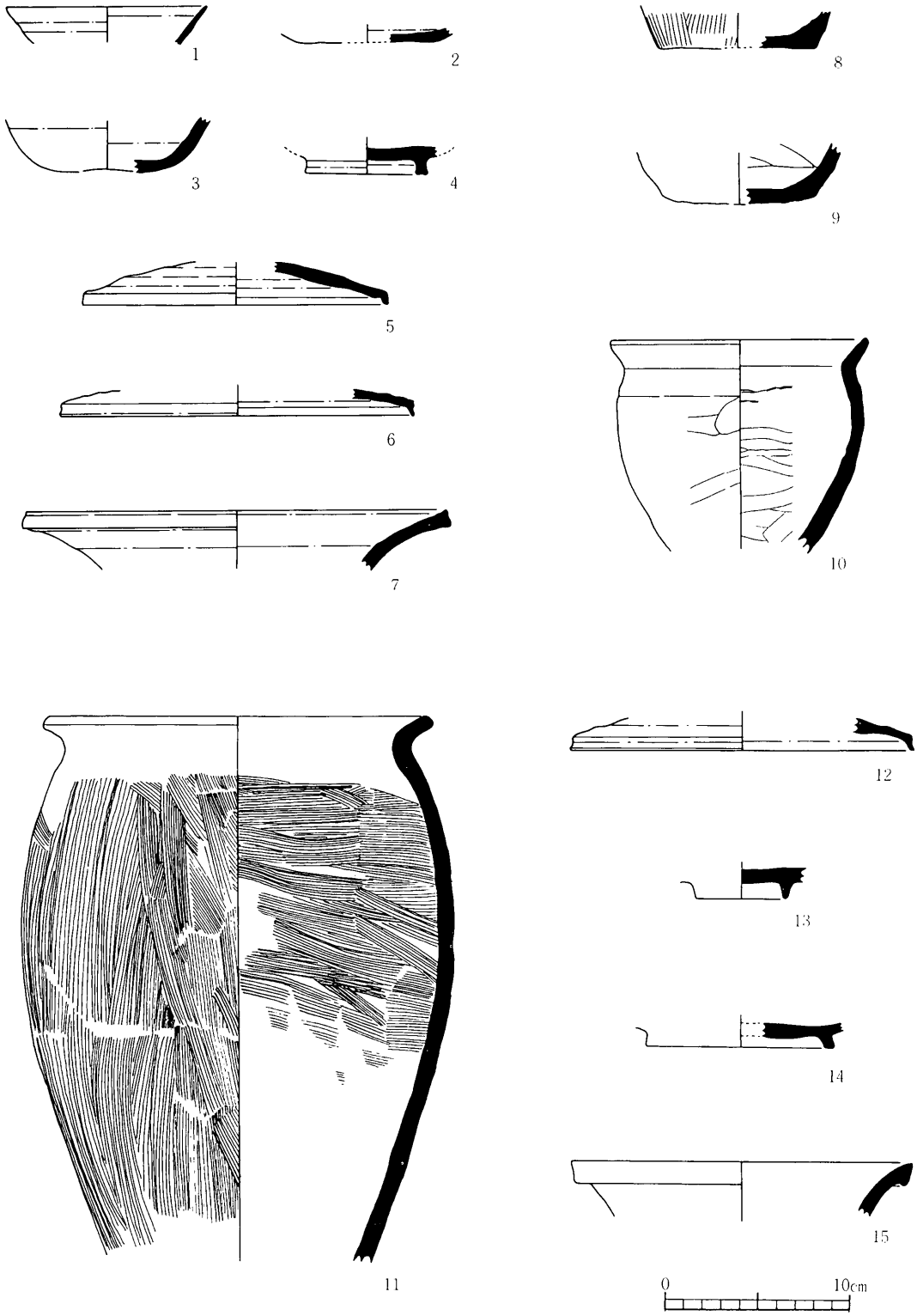
工事掘削時の所見では耕作土が30cm、礫の混じる褐色土が30cm、微砂の混じる粘性の強い黄褐色土が110cmと層をなし、その下は大礫を含む黄褐色土層が続く。遺構はなく、遺物は須恵器片が１片採集されたのみである。

⑤第５地点　岡田一ツ家（岡田西裏）

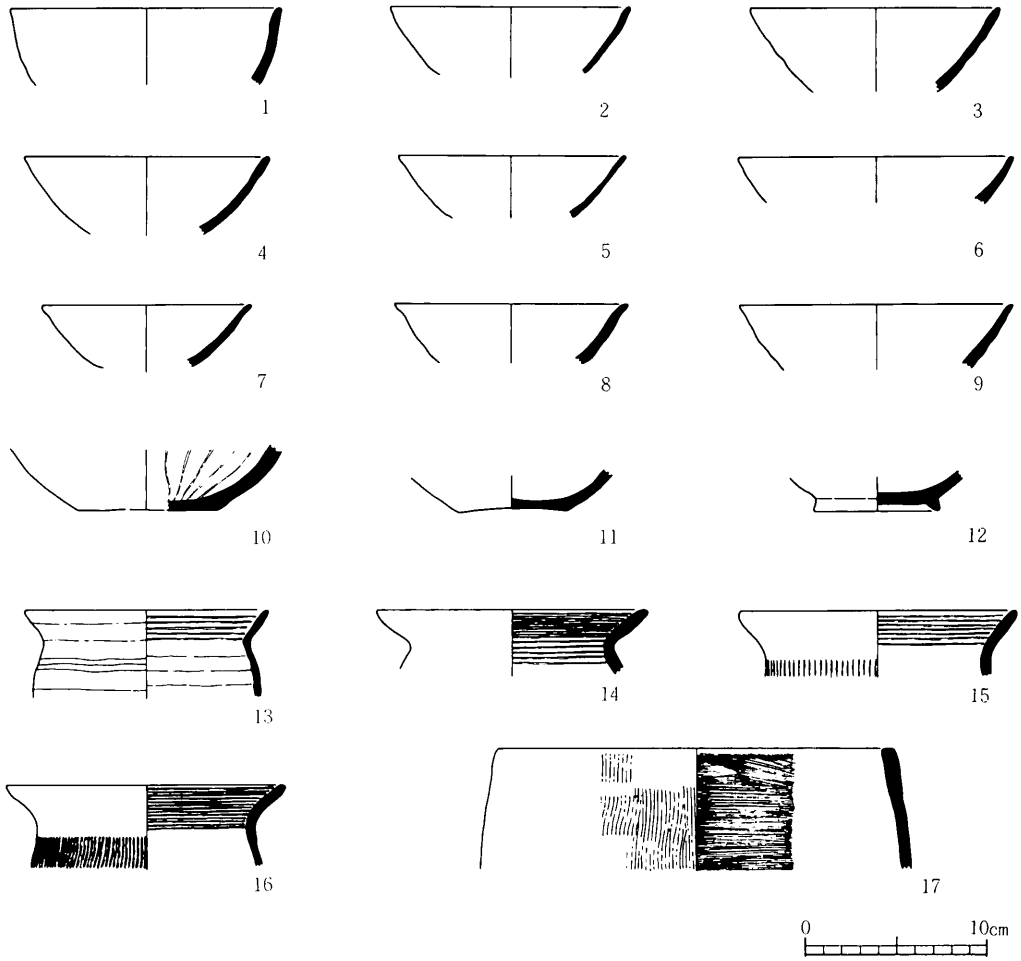
第１号住居址は８×８mの範囲で設定した調査地の北東隅に検出され、調査地を一部拡張して完掘した。南北3.7、東西3.2mの長方形プランをもつ竪穴住居址である。南辺の一部に張り出しがあり、西辺の南隅一帯は攪乱により破壊されている。側壁はやや傾斜をもって掘り込まれており、壁高は20～30cmを測る。床面は幾分凹凸があるが堅く良好なものであった。ピットの検出はない。炉またはカマドに該当する施設は見当たらないが、床上の各所に焼土が分布しており、特に中央部から西壁際まで続く焼土は範囲が広く、西壁の中央部にカマドが設けられていた可能性がある。北西隅の床上に径20cmと最大50cm位の人為的に置かれたと思われる礫が３ヶまとまっていたが、何に用いられたものかはわからなかった。



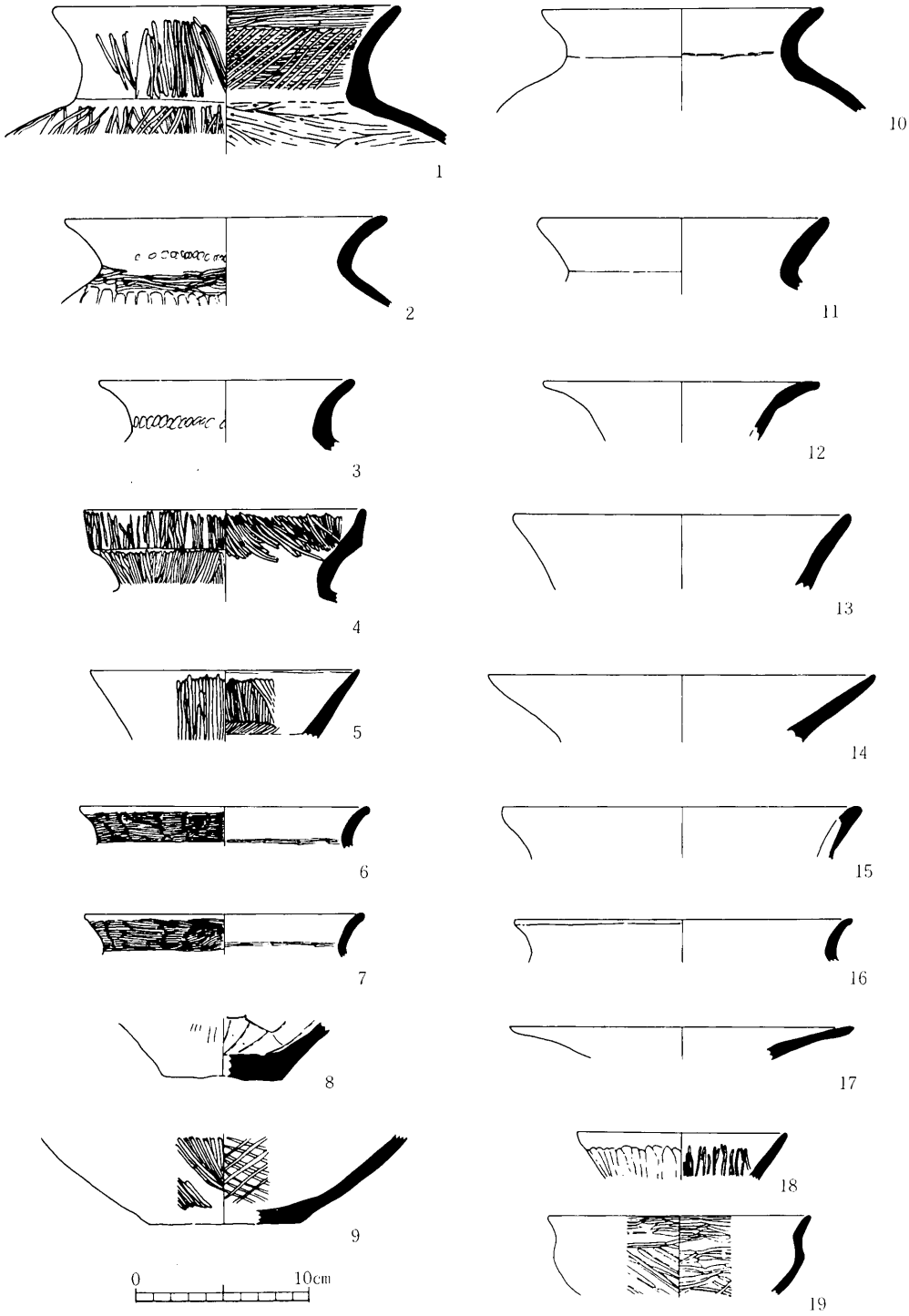
第３図　調査範囲図及び第１号住居址実測図



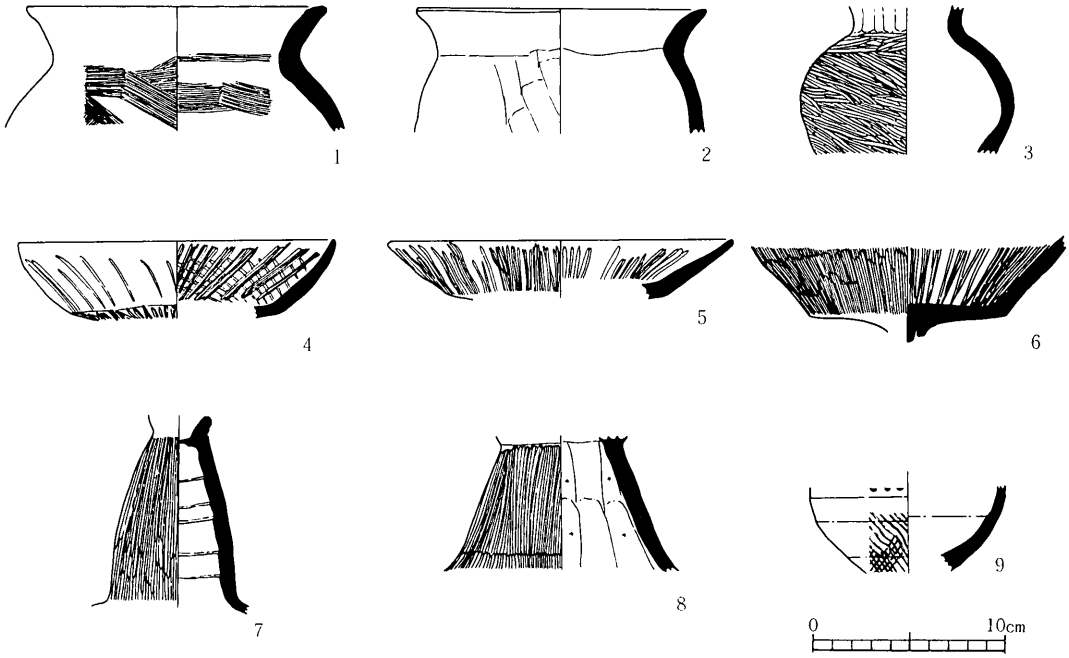
第4図　第1号住居址出土土器



第５図　下り遺跡（カマド址）出土土器(1)



第６図　下り遺跡出土土器(2)



第７図　下り遺跡出土土器(3)

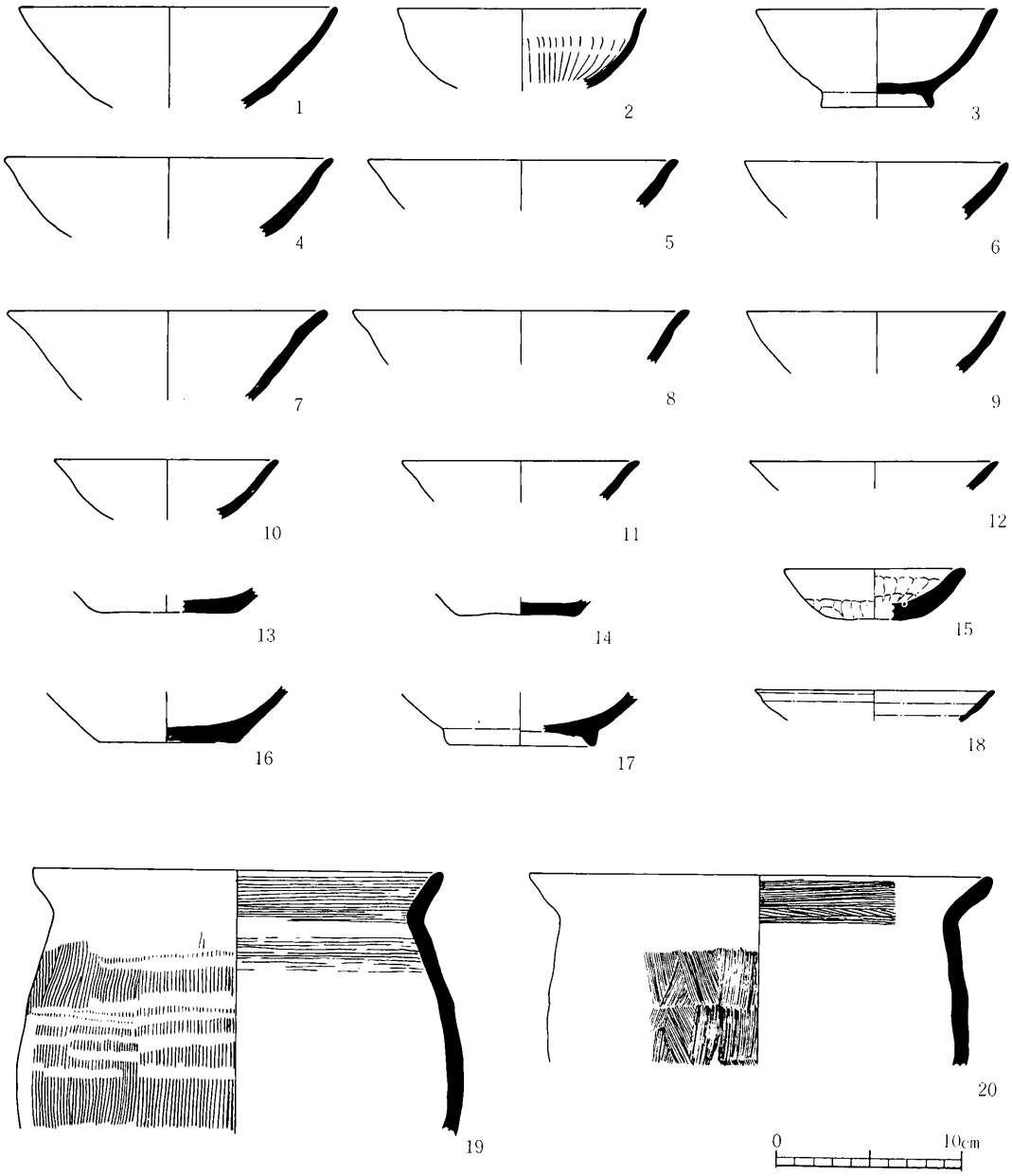
(2) 遺物

①岡田西裏第１号住居址出土土器（第４図）

第１号住居址の検出面・覆土上層及び下層・床面から出土したものである。図示したものは須恵器坏（１～４・14）・蓋（５・６・12）・壺（７・15）、土師器甕（８・９・11）・小形甕（10）、緑釉陶器（13）の15点、ただし12～15は覆土上層からの出土であり、たぶん本址埋没とそれ以後の混入品と思われるので、従って１～11までで見ると８Ｃ終わりから９Ｃ前半の時期が本址の時期と考えられる。

②松岡下り（角田文夫氏宅）出土土器（第５図～第８図）

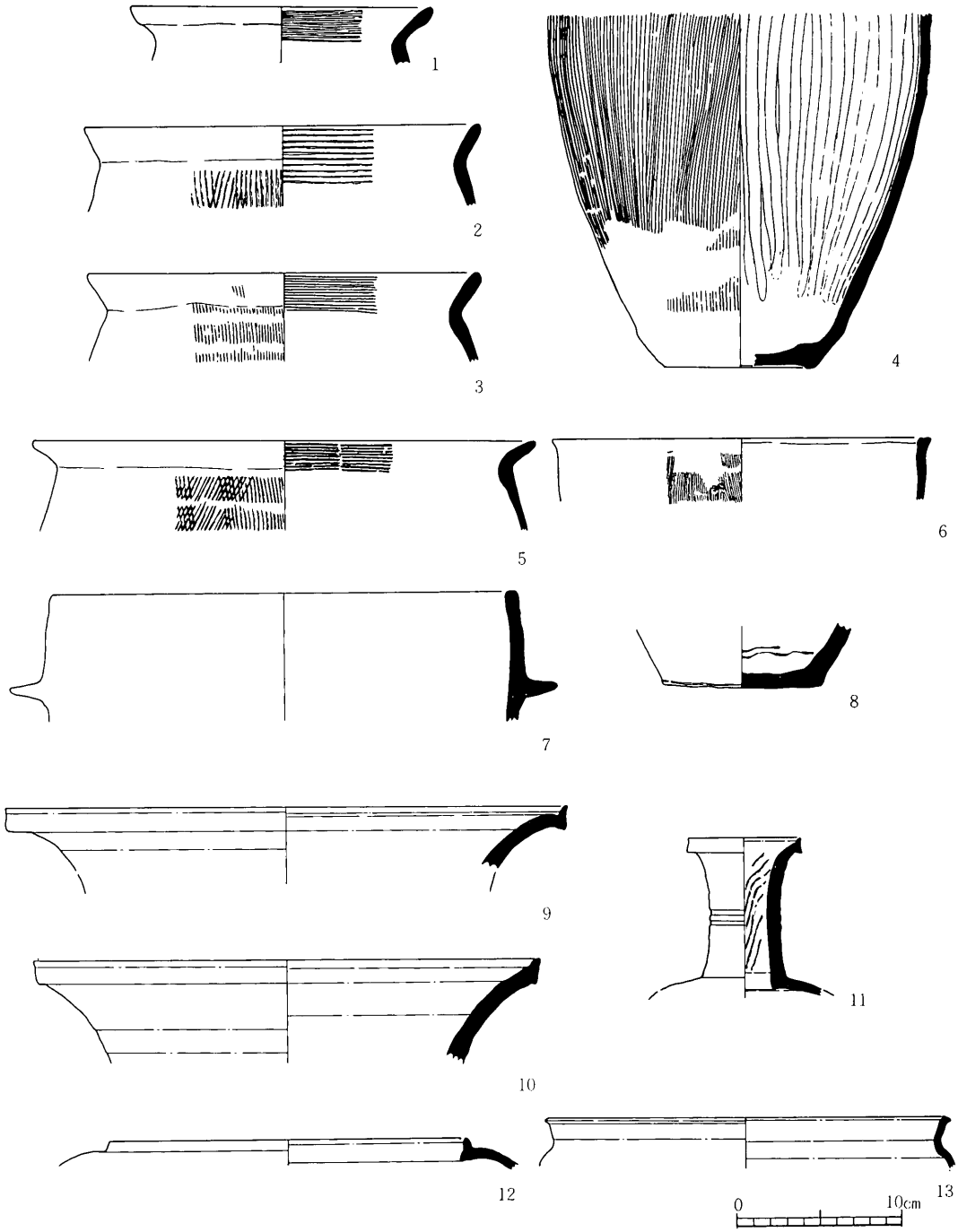
下り遺跡からは多量の遺物が検出されており、かなりの遺構の存在が推定されるので周辺遺跡として紹介する。第５図はカマド出土のもので９Ｃ後半から10Ｃ前半に位置する土師器で、坏・甕が多い。第６・７図は下り遺跡全域出土のもので、二重口縁の壺や坩・高坏などがあり、５Ｃ後半に位置付けられる。第９図の８までも下り遺跡全域出土のものであるが、９Ｃ後半から10Ｃ前半に位置するものである。



第８図　下り遺跡出土土器(4)

③田溝池西遺跡（第９図９～13）

田溝池西遺跡の北側で採集されたもので、９・10は10Ｃ前半、11以降は８Ｃ後半から９Ｃ前半に位置付けられる壺類である。



第９図　下り遺跡・田溝池西遺跡出土土器

出土土器観察表

遺物番号 図番号	種別 器種	口径 底径 器高	外面色調 内面色調 胎土色調	残存度	成形・調整の特徴	備考
1 4	須恵 坏	10.8	灰色 灰色 灰色	口縁部 ～ 胴部中位	ロクロ成形　内外面ナデ	西裏1住出土
2 4	須恵 坏	7.4	茶褐色 茶褐色 茶褐色	底部	ロクロ成形　底部ヘラケズリ 内面ナデ	西裏1住出土
3 4	須恵 坏	5.0	茶灰色 茶灰色 茶灰色	胴部中位 ～ 底部	ロクロ成形　内外面ナデ	西裏1住出土
4 4	須恵 有台坏	6.6	灰白色 灰白色 灰白色	底部	ロクロ成形　台部ナデ 内面ナデ 底部回転ヘラケズリ	西裏1住出土
5 4	須恵 蓋	—— 16.4	茶灰色 茶灰色 茶灰色	天井部中位 ～ 端部	ロクロ成形　外面天井部ヘラケズリ 端部ナデ 内面ナデ	西裏1住出土 貼付け台
6 4	須恵 蓋	—— 19.0	暗灰色 灰色 灰白色	天井部周縁 ～ 端部	ロクロ成形　外面端部および内面ナデ	西裏1住出土
7 4	須恵 壺	22.6	暗灰色 茶灰色 灰白色	口縁部	ロクロ成形　外面ナデ	西裏1住出土 頸部内面自然釉
8 4	土師 甕	8.4	赤褐色 赤褐色 赤褐色	底部	胴下位外面タテハケメ 底部ヘラケズリ 底内面ヘラケズリ	西裏1住出土
9 4	土師 甕	8.3	暗褐色 赤褐色 赤褐色	底部	底部ヘラケズリ 胴下位内面ナナメナデ	西裏1住出土
10 4	土師 小形甕	13.6	暗褐色 赤褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部下位	輪積み　外面口縁～頸部ヨコナデ 胴部タテナデ 内面ユビヨコナデ	西裏1住出土
11 4	土師 甕	20.2	茶褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部下位	輪積み　外面胴部タテハケメ 内面胴上部ヨコハケメ	西裏1住出土
12 4	須恵 蓋	—— 18.4	暗灰色 灰色 灰白色	天井部周縁 ～ 端部	ロクロ成形　外面ナデ	西裏1住覆土出土 天井部外周に自然釉
13 4	緑釉 有台坏	4.8	濃緑色 淡緑色 暗灰色	底部	ロクロ成形 底部糸切り	西裏1住覆土出土 貼付け台
14 4	須恵 有台坏	10.0	暗褐色 茶褐色 茶褐色	底部	ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ	西裏1住覆土出土 貼付け台、底内面付着物あり 焼成不良にて一見土師質

遺物番号 図番号	種別 器種	口径 底径 器高	外面色調 内面色調 胎土色調	残存度	成形・調整の特徴	備考
15 4	須恵 壺	18.2	暗灰色 暗灰色 茶褐色	口縁部	ロクロ成形外面ナデ	西裏1住覆土出土
1 5	土師 坏	14.8	赤褐色 黒色 褐色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
2 5	土師 坏	12.4	赤褐色 黒色 褐色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
3 5	土師 坏	13.6	赤褐色 黒色 茶褐色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
4 5	土師 坏	13.4	赤褐色 黒色 褐色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
5 5	土師 坏	13.2	赤褐色 黒色 褐色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
6 5	土師 坏	15.0	赤褐色 黒色 茶褐色	口縁部 〜 胴部中位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
7 5	土師 坏	11.4	赤褐色 黒色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
8 5	土師 坏	12.8	赤褐色 黒色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
9 5	土師 坏	15.0	赤褐色 黒色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下りカマド址出土
10 5	土師 坏	7.6	赤褐色 黒色	底部	外面ヨコナデ 内面暗文 底部ヘラケズリ	下りカマド址出土
11 5	土師 坏	5.8	赤褐色 黒色 茶褐色	底部	外面ヨコナデ 底部糸切り	下りカマド址出土
12 5	土師 有台坏	6.7	赤褐色 黒色 茶褐色	底部	外面ヨコナデ 台部ナデ 底部糸切り	下りカマド址出土 貼付け台
13 5	土師 小形甕	13.2	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部 〜 胴部上位	外面口縁ヨコナデ胴ヘラナデ 内面口縁ヨコハケメ胴ユビナデ	下りカマド址出土

遺物番号 図番号	種別 器種	口径 底径 器高	外面色調 内面色調 胎土色調	残存度	成形・調整の特徴	備考
14 5	土師 小形甕	14.6	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部	外面口縁～胴ヨコナデ 内面口縁～頸ヨコハケメ	下りカマド址出土
15 5	土師 小形甕	15.0	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部	外面口縁～頸ヨコナデ、胴タテハケメ 内面口縁ヨコハケメ	下りカマド址出土
16 5	土師 小形甕	15.2	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部	外面口縁～頸ヨコナデ、胴タテハケメ 内面口縁ヨコハケメ	下りカマド址出土
17 5	土師 鍔釜	21.4	茶褐色 褐色 褐色	口縁部	外面タテハケメ 内面ヨコナデ	下りカマド址出土
1 6	土師 壺	19.4	赤褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部上位	外面口縁タテヘラミガキ、胴ナナメヘラミガキ 内面口縁ヨコナナメヘラミガキ、胴ヘラケズリ	下り出土
2 6	土師 壺	19.2	赤褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部上位	外面～内面口縁部ヨコナデ 外面頸部ヘラオサエ、ヨコヘラミガキ 〃 胴部タテヘラミガキ	下り出土
3 6	土師 壺	14.4	赤褐色 褐色 茶褐色	口縁部	外面頸部ヘラオサエ 内外面ヨコナデ	下り出土
4 6	土師 壺	16.0	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部 ～ 頸部	外面口縁～頸タテヘラナデ 内面口縁ナナメヘラナデ、頸ヨコナデ	下り出土
5 6	土師 壺	15.4	赤褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部	外面口縁タテヘラミガキ 内面口縁ナナメヘラナデ	下り出土
6 6	土師 甕	16.4	茶褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部	外面口縁部、内面頸部ヨコヘラナデ 内面口縁部ヨコナデ	下り出土
7 6	土師 甕	16.0	茶褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部	外面口縁部、内面頸部ヨコヘラナデ 内面口縁部ヨコナデ	下り出土
8 6	土師 甕	6.0 6.0	暗褐色 茶褐色 褐色	底部	外面タテハケメ 内面ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	下り出土
9 6	土師 壺	8.6	茶褐色 暗褐色 褐色	底部	外面ナナメヘラナデ、底部付近ヨコナデ 内面ナナメヘラナデ 底部回転ヘラケズリ	下り出土
10 6	土師 壺	15.7	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部上位	内外面ともヨコナデ	下り出土

遺物番号 図番号	種別 器種	口径 底径 器高	外面色調 内面色調 胎土色調	残存度	成形・調整の特徴	備考
11 6	土師 壺	16.6	赤褐色 茶褐色 褐色	口縁部	内外面ともヨコナデ	下り出土
12 6	土師 壺	15.6	赤褐色 赤褐色 褐色	口縁部	内外面ともヨコナデ	下り出土
13 6	土師 壺	19.0	茶褐色 褐色 褐色	口縁部	内外面ともヨコナデ	下り出土
14 6	土師 壺	22.0	茶褐色 褐色 褐色	口縁部	内外面ともヨコナデ	下り出土
15 6	土師 甕	20.4	赤褐色 茶褐色 暗褐色	口縁部	内外面ともヨコナデ	下り出土
16 6	土師 甕	19.2	茶褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部	内外面ともヨコナデ	下り出土
17 6	土師 壺	19.6	赤褐色 赤褐色 褐色	口縁部	内外面ともヨコナデ	下り出土
18 6	土師 坏	11.0	赤褐色 赤褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部下位	外面～内面ヨコナデ 外面胴ヘラミガキ 内面胴ヘラナデ	下り出土
19 6	土師 坏	15.0	赤褐色 赤褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部下位	外面口縁ヨコヘラナデ、胴ナナメヘラナデ 内面口縁～胴ヨコヘラナデ	下り出土
1 7	土師 小形甕	15.6	茶褐色 茶褐色 褐色	口縁部 ～ 胴部中位	外面～内面口縁ヨコナデ 外面胴ナナメハケメ 内面胴ヨコハケメ	下り出土
2 7	土師 小形甕	15.0	茶褐色 茶褐色 褐色	口縁部 胴部中位	外面～内面口縁ヨコナデ 外面胴ヘラナデ 内面胴ヨコナデ	下り出土
3 7	土師 小形壺		赤褐色 暗褐色 褐色	胴部	外面頸ユビナデ 〃 胴上部ヨコヘラミガキ、中位ナナメヘラミガキ 内面胴タテナデ	下り出土
4 7	土師 高坏	16.4	赤褐色 赤褐色 褐色	坏部	内外面ともナナメヘラミガキ	下り出土
5 7	土師 高坏	18.0	赤褐色 赤褐色 褐色	坏部	内外面ともタテヘラナデ	下り出土

遺物番号 図番号	種別 器種	口径 底径 器高	外面色調 内面色調 胎土色調	残存度	成形・調整の特徴	備考
6 7	土師 高坏		赤褐色 赤褐色 褐色	坏部	外面タテヘラナデ 内面タテヘラナデ	下り出土
7 7	土師 高坏		赤褐色 暗褐色 褐色	脚部	外面タテヘラナデ 内面輪積み痕	下り出土
8 7	土師 高坏		赤褐色 暗褐色 褐色	脚部	外面タテヘラナデ 内面ヘラケズリ	下り出土
9 7	須恵 甕		灰色 灰色 暗灰色	胴部	ロクロナデ 外面胴下位タタキ目文 中位波状文	下り出土
1 8	土師 坏	17.0	褐色 黒色 褐色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下り出土
2 8	土師 坏	13.4	茶褐色 黒色 褐色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ 内面暗文	下り出土
3 8	土師 坏	13.0	茶褐色 黒色 茶褐色	完形	外面ヨコナデ 脚部ナデ 底部糸切り	下り出土
4 8	土師 坏	17.4	茶褐色 黒色 茶褐色	口縁部 〜 胴部下位	外面ヨコナデ	下り出土
5 8	土師 坏	16.6	茶褐色 黒色 茶褐色	口縁部 〜 胴部中位	外面ヨコナデ	下り出土
6 8	土師 坏	14.0	褐色 暗褐色 褐色	口縁部 〜 胴部中位	内外面ともヨコナデ	下り出土
7 8	土師 坏	17.0	褐色 暗褐色 褐色	口縁部 〜 胴部下位	内外面ともヨコナデ	下り出土
8 8	土師 坏	18.0	茶褐色 黒色 茶褐色	口縁部 〜 胴部中位	外面ヨコナデ	下り出土
9 8	土師 坏	13.8	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部 〜 胴部下位	内外面ともヨコナデ	下り出土
10 8	土師 坏	12.0	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部 〜 胴部下位	内外面ともヨコナデ	下り出土

遺物番号 図番号	種別 器種	口径 底径 器高	外面色調 内面色調 胎土色調	残存度	成形・調整の特徴	備考
11 8	土師 坏	12.8	茶褐色 暗褐色 茶褐色	口縁部	内外面ともヨコナデ	下り出土
12 8	土師 坏	13.4	茶褐色 黒色 茶褐色	口縁部	外面ヨコナデ	下り出土
13 8	土師 坏	7.4	暗褐色 黒色 茶褐色	底部	外面ヨコナデ 底部糸切り	下り出土
14 8	土師 坏	6.3	暗褐色 茶褐色 茶褐色	底部	外面ヨコナデ 内面ユビナデ 底部ヘラナデ	下り出土
15 8	土師 坏	8.6	暗褐色 黒色 茶褐色	ほぼ完形	外面口縁ヨコナデ 胴下位～底ヘラケズリ 内面暗文	下り出土
16 8	土師 坏	7.2	茶褐色 黒色 茶褐色	底部	外面ヨコナデ 底部外周ヘラケズリ	下り出土
17 8	土師 有台坏	7.6	茶褐色 黒色 茶褐色	底部	外面口縁ヨコナデ 脚部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	下り出土
18 8	須恵 坏	12.8	灰色 灰白色 灰色	口縁部	ロクロ成形内外面ともナデ	下り出土
19 8	土師 甕	21.6	暗褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部中位	外面口縁ヨコナデ、胴タテハケメ 内面口縁ヨコハケメ	下り出土
20 8	土師 甕	24.4	暗褐色 茶褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部中位	外面胴タテハケメ 内面口縁ヨコハケメ	下り出土
1 9	土師 甕	18.0	茶褐色 暗褐色 暗褐色	口縁部	内面口縁ヨコハケメ	下り出土
2 9	土師 甕	23.6	茶褐色 暗褐色 暗褐色	口縁部 ～ 胴部上位	外面口縁ヨコナデ、胴タテハケメ 内面口縁ヨコハケメ	下り出土
3 9	土師 甕	23.4	茶褐色 褐色 茶褐色	口縁部 ～ 胴部上位	外面口縁ヨコナデ、胴部タテハケメ 内面口縁ヨコナデ	下り出土
4 9	土師 甕	9.0	褐色 褐色 褐色	胴部上位 ～ 底部	外面胴タテハケメ 内面胴タテヘラナデ 底部ヘラケズリ	下り出土

遺物番号 図番号	種別 器種	口径 底径 器高	外面色調 内面色調 胎土色調	残存度	成形・調整の特徴	備考
5 9	土師 甕	30.0	茶褐色 暗褐色 暗褐色	口縁部 ～ 胴部上位	外面口縁ヨコナデ、胴タテハケメ 内面口縁ヨコハケメ、胴ハケメ	下り出土
6 9	土師 鉢	22.6	褐色 褐色 褐色	口縁部	外面胴タテハケメ 内面胴ヨコナデ	下り出土
7 9	土師 羽釜	27.6	茶褐色 褐色 褐色	口縁部	内外面ヨコナデ	下り出土
8 9	土師 甕	9.5	暗褐色 暗褐色 暗褐色	底部	外面ヨコナデ 底部外周ヘラケズリ 内面底部ユビナデ	下り出土
9 9	須恵 壺	33.7	暗灰色 暗灰色 暗灰色	口縁部	口縁端ヨコナデ 頸部ロクロナデ	田溝池西出土
10 9	須恵 壺	30.4	暗灰色 暗灰色 暗灰色	口縁部	口縁端ヨコナデ 頸部ロクロナデ	田溝池西出土
11 9	須恵 壺	6.7	灰色 灰色 灰白色	口縁部	口縁ヨコナデ 頸部ロクロヨコナデ、沈線2本	田溝池西出土
12 9	須恵 鉢	21.2	灰色 暗灰色 灰色	口縁部	ロクロナデ	田溝池西出土
13 9	須恵 鉢	23.6	灰色 灰色 白灰色	口縁部	口縁外面ヨコナデ 内外面ロクロヨコナデ	田溝池西出土

図　　版

第１地点

同上試掘

第２地点

同上試掘

発掘状況(1)

岡田西裏
桑抜根

発掘地点全景

第１号住居址

発掘状況(2)

松本市文化財調査報告No.67

松本市横田・岡田遺跡

——送電線増強工事に関わる緊急発掘調査報告書——

昭和56年3月20日　印刷
昭和56年3月25日　発行

発行　松本市教育委員会
印刷　ほおずき書籍株式会社